

情報公開文書

研究の名称	胸部 X 線動態撮影による肺血流解析手法の最適化
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	放射線部 診療放射線技師長 伊藤貞則
研究の概要	<p>【研究対象者】 2020 年 1 月 1 日から 2025 年 3 月 10 日までの間に X 線動態撮影を行った患者様</p> <p>【研究の目的・意義】 近年開発された胸部 X 線動態撮影と動画解析技術により、肺野内の X 線透過性の変化にもとづく肺血流解析が可能になりました。胸部 X 線動態撮影による肺血流解析では、左心室内に自動設置された関心領域 (ROI) 内のピクセル値 (FPD 到達線量) がリファレンス信号として利用されています。これまでの研究で CETPH 患者の胸部 X 線動画像から作成された肺血流画像が、肺換気・血流シンチ、造影 CT、肺動脈造影の画像所見と一致したことが報告されているが、ROI 位置が解析精度に与える影響は検証されていません。これまでの予備研究において、肺血流画像の解析を行う上で、Auto 解析画像より Manual 解析画像の方が臨床的に有用な画像が得られやすい傾向にあることを発見し、解析時の ROI 位置・大きさの最適化が必要であると結論付けました。本研究の目的は、胸部 X 線動態撮影による肺血流解析において、臨床的に有用な画像を提供することができる ROI 位置・大きさを明らかにすることです。患者の症状・病態・治療の有無の関連性も合わせて検討します。</p> <p>【研究の方法】 臨床にて撮影された CETPH 患者の有用であると判断された肺血流画像を選別します。次に、同症例のオリジナル画像を対象に、当該肺血流画像作成に使用した ROI 位置で画像信号値変化を解析し、適正な画像に必要な信号値変化量を割り出します。そして、有用であると判断された画像の ROI 位置の傾向を解析します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025 年 3 月 31 日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 ・日本放射線技術学会学術大会発表 ・論文投稿</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>・ X 線動態撮影オリジナル画像、X 線動態撮影肺血流解析画像、肺血流 SPECT 画像、造影 CT 画像、Angio 画像、NYHA 心機能分類、WHO 肺高血圧症機能分類、CETPH 重症度分類、SG カテーテル検査心腔内圧データ (Rt-PA、Lt-PA、mPA、RV)</p> <p>共同研究機関である金沢大学へ情報提供をします。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>研究主機関 富山大学附属病院 病院長 林 篤志</p> <p>研究協力機関 金沢大学医薬保健研究域長 堀 修</p>
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示します。

試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究主機関 富山大学附属病院 放射線部 伊藤貞則 共同研究機関 金沢大学医薬保健研究域 田中利恵
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応します。 電話 076-434-7814 FAX E-mail tnakaji@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 放射線部 中島佑